

科 目 名	数値解析 Numerical Analysis			担当教員	川染 勇人		
学 年	4 年	学 期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分 野	専門	授業形式	講義・演習	科目番号	14237021	単位区別	履修
学習目標	工学分野の研究や開発では，計算機を利用して設計や数値シミュレーションを行うことが多く，問題解決のための必須の手段である。数値解析はそれらの基礎を成すものとして重要である。本授業では，数値計算の各種代表的な解法を説明し，C 言語による演習を通じアルゴリズムの理解を深めると共に，コンピュータ上で数値を表現したり計算したりする際に発生する誤差が処理結果に与える悪影響を理解する。						
進め方	教科書を基に数値解法のさまざまなアルゴリズムについて講義した後，演習を行う。主に，教科書の例題をレポート課題とするが，単に計算結果を出力するのではなく計算過程やアルゴリズムによる計算速度，計算精度の違いについても考察すること。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 数値解析とは何か (2) 2. 数値処理と誤差 (8) (1) 誤差の定義 (2) 数値計算の手順 (3) 数の表現形式 3. 非線形方程式の解法とは その1 (4) (1) 2分法			計算機上での数値の表現方法が誤差に関係することを理解する D2:1			
	[前期中間試験] (2)						
	4. 試験問題の解答 (2) 5. 非線形方程式の解法とは その2 (8) (2) はさみうち法 (3) 割線法 (4) ニュートン・ラフソン法 6. 連立方程式の解法とは その1 (4) (1) ガウスの単純消去法，ピボット選択法			連立方程式を解くとは何かを再確認し，数値解法を理解する D2:1			
	前期末試験						
	7. 試験問題の解答 (2) 8. 連立方程式の解法とは その2 (10) (2) ガウス・ジョルダン法 (3) LU 分解法 (4) ヤコビ法 9. 補間法とは その1 (4) (1) 線形補間法 (2) ラグランジュ補間法			補間法の必要性を学んだ上で，補間法を理解する D2:1			
	[後期中間試験] (2)						
	10. 試験問題の解答 (2) 11. 補間法とは その2 (2) (3) ニュートンの補間法 12. 数値積分 (6) (1) 区分求積法，台形公式 (2) シンプソンの公式 13. 常微分方程式の解法 (4) (1) オイラー法 (2) 修正オイラー法			数値積分法とは何かを学んだ上で，数値積分法を解析する D2:1 常微分方程式を解くとは何かを再確認し，数値解法を理解する D2:1			
	後期末試験			実際に C 言語によるプログラミングを行う事により，			
	14. 試験問題の解答 (2)			数値解法の必要性を理解する E2:2, E3:3			
評価方法	定期試験 70%，レポートとノートを 30%の比率で評価する。						
履修要件	特になし。						
関連科目	基礎数学Ⅰ (1 年)，基礎数学Ⅱ (1 年) → 基礎数学Ⅲ (2 年)，微分積分学Ⅰ (2 年) → 微分積分学Ⅱ (3 年)，数学解析 (3 年)，ソフトウェア設計論Ⅰ (3 年)，ソフトウェア設計論Ⅱ (3 年)						
教 材	教科書：川崎晴久著「C&Fortran による数値計算の基礎」共立出版						
備 考	オフィスアワー：毎金曜日放課後～17:00						